

市立小・中学校の適正規模・適正配置の今後の取組の考え方について

1 検討の趣旨

市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する取組に係る説明会における児童・生徒の保護者や地域住民の皆様の御意見を踏まえ、今後の取組の考え方について改めて検討するもの

2 方策の方向性（案）で示した方策の一つである「学校の統廃合」に対する懸念や統廃合以外の方策を要望する意見等

※意見が多く出たものは「○」、意見が出たものは「△」、意見なしの場合「-」

(1) 概要

区分	意見趣旨	地区別					
		小鮎 (48件※)	荻野 (69件)	玉川 (36件)	森の里 (118件)	南毛利 (22件)	南毛利南 (11件)
教育環境	小規模な学校の良さをいかした取組を優先してはどうか	-	△	○	○	-	△
	地域と連携した教育や地域特性をいかした取組を優先してはどうか	-	-	○	○	△	-
	学校の統合ではなく小中一貫校の取組を推進してはどうか	-	-	-	○	-	-
	学校規模適正化によって本当に教育効果が向上するのか	-	-	△	○	-	-
通学環境	統廃合により、通学負担が増加したり、安全性が低下したりしないか	○	○	△	△	△	-
地域づくり	地域コミュニティ維持に学校が必要ではないか	△	△	○	○	-	-
その他	財政的な理由を根拠に学校規模適正化に取り組んでいるのではないか	△	-	△	△	-	-

※各地区別の意見数（「学校の統廃合」に対する懸念や統廃合以外の方策を要望する意見以外も含んだ全ての件数）

(2) 地区別意見（抜粋）

小鮎地域（小鮎地区）
①学校の統廃合の検討は時間を要するため、現時点で通学距離などの理由から、小鮎小学校に入学したい場合に、小鮎小学校を選択できる方策を優先的に進めてほしい
②統廃合を検討していく中では、3km以内だけでなく、通学路の高低差、道の広さ、歩道の確保なども考えて、小学校低学年などは、スクールバスの検討、

<p>送り迎えをしやすいよう学校に駐車場を整備することなどを考えて、安全面を十分に考慮して小学校の通学環境を整えてほしい</p> <p>③学校は地域コミュニティの存続や発展の中核的施設である</p> <p>④子どもの「義務教育」にコストや効率性を求めること自体が問題</p>
<p>荻野地域（荻野地区）</p> <p>①統廃合を実施する場合、在校生も対象となるのか、それとも在校生がいるうちは実施しないという考えはあるのか</p> <p>②提示されたスケジュールだと、子どもが在校中に統合する可能性がある。仮に統合して新たな学校に通学することになった場合、何かしら配慮はあるか</p> <p>③説明では教職員の負担を軽減するという話があったが、仮に統廃合する場合、教職員の人数は維持されるのか</p> <p>④適正配置の方策としてスクールバスの運行が位置付けられているが、スクールバスを導入する場合、費用は保護者が負担する必要があるのか</p> <p>⑤小規模校を残しつつ、各学校で特色を持たせ、その特色に応じて、行きたい学校を選択できるようにしてはどうか</p> <p>⑥120～150 人規模の小学校を沢山残し、周辺に住民が移り住める集落づくりを回復し、中学校区単位の総合的なコミュニティ、自治会の在り方を考えてほしい</p>
<p>玉川地域（玉川地区）</p> <p>①七沢は市街化調整区域である。人が増えない経済政策を実施していながら、小学校の適正化とはお笑い草である。人口を増やし、地域を活性化し、子どもたちを育て、そこに人々が集う、そういう学校と地域づくりに向かうべきであり、そのような視点に転換してもらいたい</p> <p>②適正規模の数値的な適正基準は理解出来るが、この基準で割り振ることは無理が生じると考える。現在の玉川地区の人口から考えた場合、適正な小学校規模だと思う。一律に考えないでほしい</p> <p>③現行の小学校でも地域に根差した特色ある学校づくりが推進されている。児童が自然の中で伸び伸び育っている。現状では、絶対に廃校すべきではない</p> <p>④歴史ある、そして素晴らしい環境の立地にある玉川小学校の存続又は小規模特認校の優先校として捉えた方策を検討してもらいたい</p> <p>⑤教育環境は一律にしていくべきではない。小規模校でも教育的なマイナス面を感じず、むしろ少人数によるプラス面がすごくある。子どもの個性を大事にする面で小規模校は大事な位置付けになってくるのではないか。過去に故郷の学校が統廃合となり、その後、寂れていった地域を目にした経験がある</p> <p>⑥説明の内容について納得できるところもあるが、過去に七沢に立地していた玉川中学校は昭和 54 年に一度廃校になっており、現在の玉川中学校は別物である。玉川小学校も廃校になると、もう地域には何も残らない。ぜひ残してほしい</p>
<p>玉川地域（森の里地区）</p> <p>①地域学校協働活動のモデル地区である森の里でこんな話が出るのは驚きである。子どもたちに森の里をふるさととして感じてもらえる教育を盛んに実</p>

<p>施している。お金が無いから、統廃合ではなく、お金が無い中でも、全ての小学校を残すことに成功した先進事例として示せる政策を進めてほしい</p> <p>②現状で穏やかに生徒が過ごしている中で、統合により大きな学校に行くとデメリットが大きいと感じる。もし統合を検討するなら客観的なデータを示してもらいたい</p> <p>③適正規模・適正配置の考え方は、小規模校では学校教育に良くないし、建物の管理経費がかさむので統廃合すると言っているようにしかみえない</p> <p>④森の里小学校は、少人数であるが、手厚く先生方に見てもらえていると感じる。統廃合だけではなく、森の里小学校、森の里中学校を小規模特認校化する等も検討してほしい</p> <p>⑤1学級が悪い、多様性が持てないという考えは捨ててほしい。1学級でも1学級の良さをいかした学校運営は可能である。統廃合ではなく、小中一貫校など他の方法を真剣に考えてほしい</p> <p>⑥住民の立場では、こういう内容は撤回してほしい。対案として、小規模な学校に対してどのような教育を進めていくか示してほしい。市内における地理的状況も考慮して、地域活性化などの観点も踏まえ検討してもらいたい</p> <p>⑦子どもの声が聞こえることはとても大事なので、まちづくりの一環として考えるべきであり、数字だけで統廃合を考えるのは間違っている</p> <p>⑧高齢化を迎えるに当たり、小・中学校が持つ地域の拠点としての機能がとても大切である。子どものためという視点だけではなく、森の里地域をどのようにデザインしていくかという視点で是非考えてもらいたい</p> <p>⑨学校が統廃合されて、学校がなくなるとこの地区に引っ越してくる人もいなくなるし、この地区から出て行ってしまいう人も増えるのではないかと</p> <p>⑩森の里から学校がなくなる統廃合に反対。市として子育てを推進しているのであれば、森の里の環境をいかし、他県から若い子育て世帯を呼び込む対策を取るべき</p>
<p>南毛利地域（南毛利地区）</p>
<p>①玉川中学校の統廃合が検討されているが、統廃合せず予防策を実施しながら、統廃合しない方向で検討をしてほしい。毛利台小→玉川中での進学を考えていたので、統廃合を行うと通学などが心配である</p> <p>②小規模特認校を中学校でも指定して、教育を受ける環境の選択肢を増やせば良いと思う。規模を合わせるだけが正しいとは思わない</p> <p>③森の里や玉川は地域特性があるので、小規模特認校制度が良いのではないかと</p>
<p>南毛利地域（南毛利南地区）</p>
<p>①地域コミュニティとの関係では、厚木市は、小学校の校数当たりの人口が約1万人程度であり、この割合は理想的な数字だと思うので、統廃合の検討を進めるのではなく、現状を維持する方法を考えてほしい。現状の学校を維持しつつ、学級規模を小さくしていくという方策を取ってほしい</p> <p>②約422億円の財源が不足する見込みとあるが、足りない財源は他から持ってくれば良いと思う。世界の国では、20人学級や25人学級が増えてきているので、統廃合する必要性はなく、現状のまま続けていく方が良い</p>

3 今後の取組の考え方について

説明会でいただいた御意見を参考に、「教育環境」や「通学環境」、「地域づくり」の観点から方策の方向性の考え方を再度整理し、対象となる学校の児童・生徒保護者や地域住民の皆様を対象にアンケート調査を実施した上で、方策の方向性（案）について検討を進める。

なお、検討に当たっては、次の3点について整理を進めるものとする。

【整理すべき事項】

- (1) 長期的な本市の学校の在り方や学校規模適正化の方策実施の考え方
→将来的に児童・生徒数が更に少なくなる場合、学校規模が適正化するまで統廃合や通学区域の再編成を実施していくのか
- (2) 地域コミュニティの単位を「地域」と「地区」のどちらで捉えるべきか
※各地域・地区の小・中学校の立地状況は別紙のとおり
→方針では、「通学区域については、地域コミュニティとの関係性や通学域編制の経緯を踏まえ、市制施行前の旧町村域による8地域を基に再編成を伴う方策を検討する」としているが、地域コミュニティの単位を地区で捉える必要があるか
- (3) 学校規模適正化と学校を中心とする地域コミュニティ維持・向上との関係性を踏まえた方策の考え方
→両者が互いに与える影響を踏まえ、どのような原則に基づき取組を進めていくべきか

【(参考)本市の教育の在り方の視点から、別途検討する事項】

- ・ 地域特性をいかした魅力ある学校づくりの検討
- ・ 小中一貫教育の在り方の検討

【各地域・地区の小・中学校の立地状況】

地域(8)	地区(15)		小学校			中学校	
厚木地域	(1)	厚木北地区	厚木小学校			厚木中学校	
	(2)	厚木南地区	厚木第二小学校			-	
依知地域	(3)	依知北地区	北小学校	上依知小学校		藤塚中学校	
	(4)	依知南地区	依知南小学校	依知小学校		依知中学校	
睦合地域	(5)	睦合北地区	三田小学校			睦合中学校	睦合東中学校
	(6)	睦合南地区	清水小学校	妻田小学校		-	
	(7)	睦合西地区	-			林中学校	
荻野地域	(8)	荻野地区	荻野小学校	鳶尾小学校	上荻野小学校	荻野中学校	
小鮎地域	(9)	小鮎地区	小鮎小学校	飯山小学校		小鮎中学校	
南毛利地域	(10)	南毛利地区	南毛利小学校	戸室小学校	毛利台小学校	南毛利中学校	
	(11)	緑ヶ丘地区	緑ヶ丘小学校			-	
	(12)	南毛利南地区	愛甲小学校			東名中学校	
玉川地域	(13)	玉川地区	玉川小学校			玉川中学校	
	(14)	森の里地区	森の里小学校			森の里中学校	
相川地域	(15)	相川地区	相川小学校	戸田小学校		相川中学校	